

## マスコミにとりあげられた「谷川士清の会」

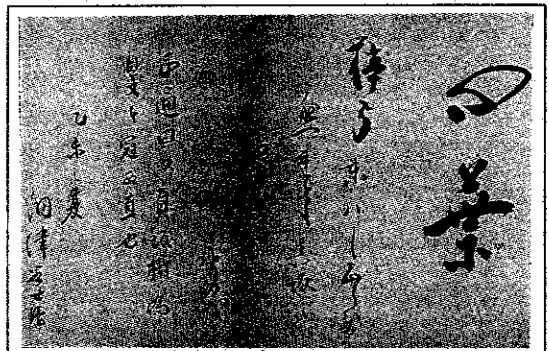
郷土の誇る偉大な国学者・谷川士清を広く世に知らしめる仕事こそ、我々の大事な役割ではないだろうか。「士清の会」は市民団体として活動するなかマスコミから広く注目されてきた。我々の活動の機軸である本草学。漢方医でもあった士清の偉業を顕彰しようと薬草展示園を作り、薬草を栽培しはじめた。出張講座と称しての小学校の巡回講座は、次代を担う子供たちに郷土の誇る国学者士清の業績や、人となりを伝えようとする活動である。

去年は市内の五校を訪問し、当初の目的を果たした。

これらの活動は新聞各紙や地元ケーブルテレビなどに取り上げられたことは、記憶にも新しい事と思われる。マスコミに注目されたことによって、「谷川士清」の名前が広く知られてきたことは喜ばしいことである。我々が士清を顕彰し、PRすることによって市民が身近に士清を感じ、津市の歴史にも関心をもって欲しいものである。

## 谷川士清の新資料の発表——士清の直筆——

津市の誇るべき谷川士清の遺作は、「和訓栞」「日本書紀通証」等広く知られているが、和歌・賛・物語・手紙等の詳細については、余り知られていないものもある事から、研究部会の課題として取組み、未発表の資料の発掘に務めた処幸い部会員の知人に、和歌（短冊・扇面）と手紙や賛を保有されている情報を聞き、早速拝見させて頂き、三ツ村氏の指導により、部会員は解説作業に取り掛かった。作業は会発足後直ちに開始され、主に塚澤洋と森晋が担当した。



解説は三ツ村氏にお願いし、新資料の発掘に務めた処

新聞で会の活動の紹介記事を見たところ、西丸之内の河辺様から和歌と処方箋の掛け軸を、西古河町の鰻田様からは手紙を、八町の大岡屋様からは和歌の掛け軸（写真）を拝見することになり、石水会館のご厚意により会議室をお借りして、全部を写真に納めた。発掘資料は、掛け軸5・手紙3・短冊18・扇面17・その他4の総数47点の多きを数え殆どは直筆であった。

文化課の示唆と、部会の主な活動計画である市民対象の「公開講座」を津市図書館視聴覚室で平成11年12月18日に開催したところ、会員30名・一般25名の参加を得た。新資料とは別に、三ツ村氏ご提供の「怪談記野狐名玉一卷」と文化課提供の「谷川家処方書」を三ツ村氏にご講話をお願いし、興味深いお話しに参加者は感銘を受けた。（森）

### 編集後記

- 江戸時代の屈指の国語学に業績を残した谷川士清。偉大な活躍をしたにもかかわらず、市井では余りに知られていない。斯様な人々こそ今、我々が光をあてなくては先人に申し訳ない。（K・T）
- 近所に住んでいて気になっていたが、研究していなかった谷川士清。今回「谷川洞津塾」と「士清の会」両方に参加できた。（M・S）
- 会報名「たまむしのもり」は反古冢の故事に由来する。会報が谷川士清の事績顕彰の吉兆になって、発展してほしいと思う。
- 今回編集にたずさわって、士清の歴史にふれることによって郷土愛を一層深め、歴史に興味を持つきっかけができたことが、なによりも嬉しいことです。（Y・H）
- できるだけ多くの会員に、会報作りに参加して頂きたいと原稿をお願いしました。ところが、紙面に限りがあり、編集は大変のひとことでした。原稿を執筆された方、会報を読まれる方、共にご不満な部分があるかと思いますがお許し下さい。（K・O）

- ◆「谷川士清の会」が設立されてから1年、様々な行事がありました。会員の皆様もおおいに学び、楽しまれたことと思います。会の活動を知って頂こうと、会報1号では1年間の行事を中心に編集させて頂きました。会報についてのご意見等ありましたら下記までお知らせ下さい。

会報編集委員長 岡平くみ子 (TEL・FAX) 059-231-2335